

「県内経済活性化」

家計循環道路建設工事 ～100億円の県内支出増～

 チーム カッターヘッド 

福井県坂井健康福祉センター 中川 友里
福井県観光振興課 前 宗徳
福井県三国土木事務所 向井 裕貴
坂井市女性活躍推進室 杉田 和也

- 1 要約 2P
- 2 現状分析 3P
- 3 課題と施策の方向性 6P
- 4 政策提言 7P
- 5 まとめ 10P
- 6 終わりに 11P



1 要約

提案趣旨

- (1) 県内経済を活性化させるためには、経済活動の主体となる家計において県外への支出を減少させることが重要。
- (2) 県外への支出が多い費目について、県内で供給されるモノ・サービスで代替し、県内支出を年間100億円増やす。

現状

- ① 県内量販店での県産食材の取扱量が少ない
- ② 県外に進学する学生が多く、仕送り総額が大きい
- ③ 県内で消費される教養娯楽費が少ない

家計支出の割合(支出額は年額)

食料	869,016円	25.9%
住居	171,312円	5.1%
光熱・水道	274,416円	8.2%
家具・家事用品	104,256円	3.1%
被服および履物	137,628円	4.1%
保険医療	132,528円	4.0%
交通・通信	413,244円	12.3%
教養	89,568円	2.7%
教養娯楽	304,956円	9.1%
その他の支出	856,524円	25.5%
計	3,353,448円	100%

平成27年家計調査-福井市の家計-

施策

県外流出から県内循環へ

1 食料費の県内循環額増加

(1)目的

県民の県産食材に対する購入意欲を高め、量販店における県産食材の取扱量を増やす。

(2)事業

福食フェス

- ① 県産食材の国士無双
- ② 291円食堂

2 仕送りの支出転換

(1)目的

県外に支出されている仕送りの一部を県内産品・サービスに置き換える。

(2)事業

STOP! 仕送り

- ① ふるさと福井パック
- ② ふるさと福井単位

3 教養娯楽費の県内支出増加

(1)目的

高齢者の習い事に対する意識を高め、習い事を始めてもらうことにより、県内の月謝料を増やす。

(2)事業

発掘セカンドライフ

- ① 楽校
- ② 習い事寄合



2 現状分析① 食料費

現状まとめ

- (1) 家計の支出で最も割合が大きいのは食料費となっているが、県産食材の購入割合は低い。
- (2) 県産食材の流通量の安定確保が課題となっている。

食料費の現状

(1) 食料費 72,418円／月
(家計に占める割合は約26%)

(2) 入手先別県産食材の購入割合

入手先	県産食材の割合
スーパー	40.8%
生協、農協	43.3%
商店、専門店	47.9%
直売所	84.4%

第二回福井県地産地消率状況調査事業報告書(平成24年3月)

量販店へのヒアリング

日時:8月4日(木)10:00~11:00
場所:福井県民生活協同組合

(1) 店舗における取扱量

穀類(米)	95~100%	野菜類	20%
肉類	0%	乳卵類	100%
魚介類	10~20%	果物	20%

- (2) 県産食材に対するニーズ
ここ数年高くなってきているのを実感している。
- (3) 県産食材取扱量を増やす上での課題
流通量の安定した確保
- (4) 行政への要望
子どもや若い世代へのPR

2 現状分析② 仕送り

現状まとめ

- (1) 県外に大学生を持つ家庭において仕送り額の平均は一人8.8万円。
県外に進学している学生は11,500人(推計)で、その流出規模は年間約120億円に上る。
- (2) 学生の支出の内訳は、家賃、食費が多く、その2項目で支出の50%以上を占める。

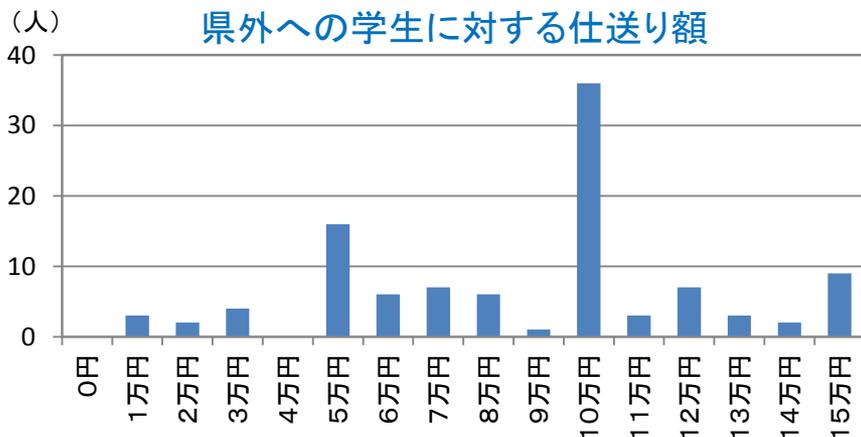
仕送りの現状

県外に学生を持つ親へのアンケート(回答数:103)

対象: 県課長級研修 7月29日(金)

県参事級研修 8月2日(火)

- (1) 仕送り額 一人あたり8.8万円/月
- (2) 県外への進学者 11,500人(推計)
- (3) 流出規模
 $11,500人 \times 8.8万円 \times 12か月 \div 10000 = 120億円$



仕送りの使途

若手職員に対するアンケート(回答数:91)

対象: 市町ステップ1研修 7月14日(木)、15日(金)

県採用3年目研修 7月19日(火)、20日(水)

(1) 学生時代の支出内訳

家賃	36.8%
食費	20.5%
交際費	15.4%
衣服・用品	9.4%
交通費	6.8%
その他	11.1%

(2) 学生時代の収入内訳

仕送り	40.1%
奨学金	31.1%
アルバイト	25.1%
その他	3.6%

2 現状分析③ 教養娯楽費

現状まとめ

- (1) 教養娯楽費は年間322,401円(全国357,889円)で、特に教養娯楽費のうち月謝が29,262円(全国37,036円)となっており、全国平均と比べ、支出額が少ない。
- (2) 高齢者の数は増加傾向だが、高齢者向けの講座数が少なく、習い事への関心も低い。

教養娯楽費の現状

(1) 教養娯楽費 322,401円/年(全国37位)

(2) 教養娯楽費の内訳

費目	主なもの	消費額(年)
教養娯楽耐久材	パソコン、テレビ	18,976円
教養娯楽用品	音楽・映像メディア 運動用品	69,174円
書籍・他の印刷物	新聞、書籍	38,078円
教養娯楽サービス	パック旅行費、放送 受信料、 月謝料	196,173円

(3) 月謝料 29,262円/年(全国40位)

<内訳> スポーツ月謝 14,641円
 音楽的月謝 6,111円
 他の教育的月謝 2,875円 など

高齢者の習い事に関する状況

(1) 高齢者向けの講座割合

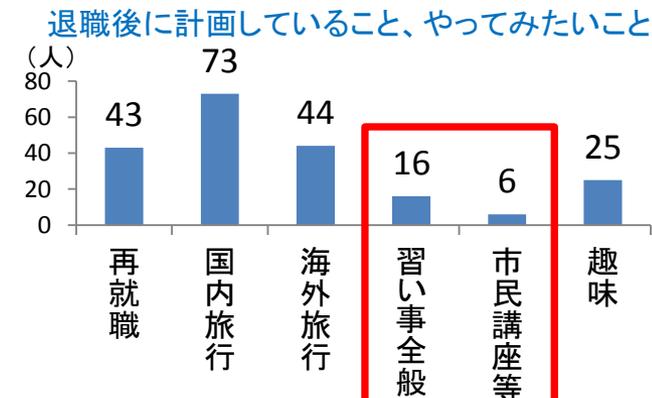
福井県	5.7%
全国平均	6.6%

(2) 退職後の活動意欲

教養娯楽費に関するアンケート(回答数:103)

対象: 県課長級研修 7月29日(金)

県参事級研修 8月2日(火)



3 課題と施策の方向性

1 食料費

- (1)現状 県内量販店での県産食材の取扱量が少ない
- (2)課題 ①県産食材の流通量の安定確保
②子供や若い世代に対するPR不足

もっと県産食材を増やしたい!!



2 仕送り

- (1)現状 県外に進学する学生に対する仕送り額が大きい
- (2)課題 ①県外進学者が多い
②家賃、食費の割合が高い

県外に出る仕送りを減らしたい!!



3 教養娯楽費

- (1)現状 県内で消費される教養娯楽費が少ない
- (2)課題 ①高齢者向けの講座が少ない
②高齢者の習い事に対する関心が低い

もっと教養娯楽費を増やしたい!!



施策の方向性

県外流出から県内循環へ

4 政策提言① 食料費の県内循環額増加

事業の目的

県民の県産食材に対する購入意欲を高め、量販店における県産食材の取扱量を増やす

事業名：福食フェス

内容

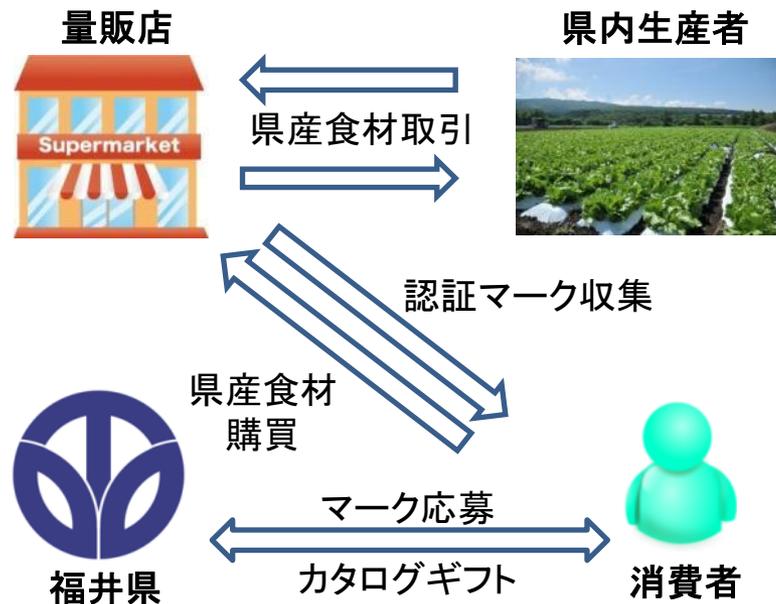
① 県産食材の国土無双

県産食材の認証制度で使用されている認証マークが貼付された商品を購入し、一定数集めると福井のグルメギフト「食の國ふくい」がもらえるキャンペーンを実施する。

② 291円食堂

県内生産者から県産食材を291円で購入し、オリジナル料理を作り、食材を提供してくれた生産者と食事をする。その模様をおはようふくいセブンの番組枠を利用して放送する。

事業スキーム



目標

県産食材取扱量の増加 40% → 45%



4 政策提言② 仕送りの支出転換

事業の目的

県外に支出されている仕送りの一部を県内産品・サービスに置き換える

事業名： STOP！仕送り

内容

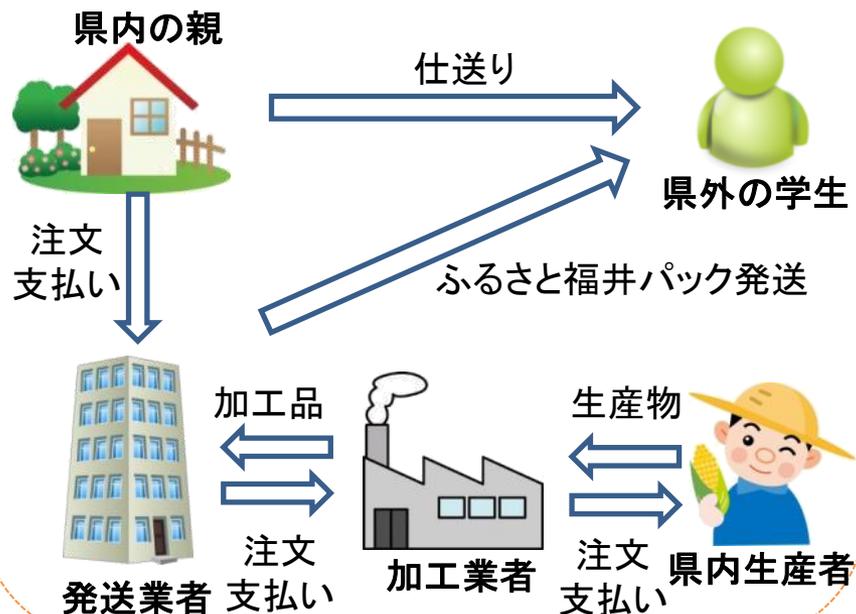
①ふるさと福井パック

県産食材を使用した米、汁物、おかずのセットを県外へ進学した学生へ提供する。季節ごとに食材、料理をかえ、飽きないよう工夫し、レンジで加熱するだけで食べられる商品とする。価格は10,000円(アンケート結果)

②ふるさと福井単位

県外へ進学した学生が、夏休みなどの長期休暇を利用して、県内大学での単位取得や企業インターンシップを行うことで、休暇中の県内支出を増やす。

事業スキーム



目標

県外進学者の約3割が利用

4 政策提言③ 教養娯楽費の県内支出増加

事業の目的

高齢者の習い事に対する意識を高め、習い事を始めてもらうことにより、県内の月謝料を増やす。

事業名：発掘セカンドライフ

内容

① 楽校

実学、趣味を学べる場として、楽校を設置し、退職をした方に通学してもらう。

② 習い事寄合

ハピテラス等で習い事等を紹介するイベント「習い事フェスタ」の大人版「習い事寄合」を開催する。

事業スキーム



目標

習い事をする高齢者 21% → 31%

5 まとめ

現状



政策

福食フェス

- ① 県産食材の国産無双
- ② 291円食堂



県産食材取扱量 5%増加
2,500円 × 28万世帯 = 7億円/月

年84億円の県内支出増加

STOP! 仕送り

- ① ふるさと福井パック
- ② ふるさと福井単位



- ① 県外進学者の約3割が利用
1万円 × 3.5千人 = 3,500万円/月
- ② 県外進学者の約3割が利用
4.2万円 × 0.9千人 = 3,800万円

年5億円の県内支出増加

発掘セカンドライフ

- ① 楽校
- ② 習い事寄合



習い事をする高齢者 10%アップ
5千円 × 2.8万人 = 1.4億円/月

年17億円の県内支出増加

経済効果

平成31年度末に年間100億円を県内経済へ循環



■チーム カッターヘッド

「カッターヘッド」とは、トンネル掘削機の先端に付けられた刃のことです。

トンネル工事のように、この研修は先の見えない難工事でした。固い岩盤が続き、刃も心も何回か折れそうになりました。

今日、研修が終わり、少し光が見えたような気がします。しかし、出口はまだ完全なものではありません。

各自職場に戻っても事業を掘り下げるという意識を持ち続けていきたいと思います。

最後に、この研修の機会を与えてくれた職場の上司、叱咤激励で最後まで背中を押してくれた田中先生に感謝します。ありがとうございました。

